

ベトナム 内視鏡検査 現地協力病院(ホーチミン チョーライ病院)

平成26年2月に関係構築と現地実証調査の為、平成24年の6月以来2度目のホーチミン チョーライ病院を訪問し、内視鏡室の見学・内視鏡装置調査、環境調査を行った。

内視鏡室で使用されている器材は購入後約10年経過しており、器材の老朽化が課題。加えて、患者が非常に多い中、内視鏡器材・医師が不足している事から、検査は短時間（1検査5分程度）で完了させており、日本で行っている詳細な観察は行っていない状況である事がわかった。チョーライ病院のみならずホーチミンでは、殆どの病院で患者が溢れており、詳細観察は出来ていない様である。現在フエで行っている日本式内視鏡診療手法を指導し、内視鏡医を増加させる事により、事業の拡大を狙える事がわかった。

また、チョーライ病院では他の東南アジア諸国（インドネシア等）からのトレーニング受講者を受け入れている。今後、チョーライ病院を拠点とする事で、ホーチミンのみならず他の東南アジア諸国のトレーニング受講生を受け入れる事ができる土壌があり、日本の医療メーカーの更なる輸出拡大を図る事ができると考える。

図表 19： チョーライ病院の様子



出所) コンソーシアム撮影